

平成26年度

掛川市・袋井市病院企業団  
病院事業会計決算審査意見書

掛川市・袋井市病院企業団監査委員





掛袋病企監第8号

平成27年8月6日

掛川市・袋井市病院企業団

企業長 名 倉 英 一 様

掛川市・袋井市病院企業団

監査委員 横 山 茂 明



監査委員 原 田 達 功



平成26年度掛川市・袋井市病院企業団病院事業会計  
決算の審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された、平成26年度掛川市・袋井市  
病院企業団病院事業会計決算及び附属書類を審査したので、次のとおり意見を提出する。



# 目 次

	ページ
1 審査の対象	1
2 審査の期日	1
3 審査の方法	1
4 審査の結果	1
5 決算の概要	2
(1) 業務の執行状況	2
(2) 予算の執行状況	5
(3) 経営成績の状況	8
(4) 財政の状態	15
(5) 未処理欠損金の処理について	16
6 キャッシュ・フロー計算書	17
7 むすび	19
8 附表1～3（併参考資料）	21

## 注 記

- 1 千円単位で表示した金額は、原則として百円単位を四捨五入した。そのため差額又は合計金額が一致しない場合がある。
- 2 比率（％）は、原則として小数点第2位を四捨五入（ただし、99.95％～99.99％のものは、99.9％としている。）し表示したため、合計比率が一致しない場合がある。また決算書等、他書類と一致しない場合もある。
- 3 各表中の符号の用法は、次のとおりである。  
「0.0」 ----- 該当数値はあるが表示単位未満のもの  
「△」 ----- マイナスのもの

# 平成26年度掛川市・袋井市病院企業団 病院事業会計決算審査意見

## 1 審査の対象

平成26年度 掛川市・袋井市病院企業団病院事業会計決算

## 2 審査の期日

平成27年6月9日

## 3 審査の方法

掛川市・袋井市病院企業団企業長から審査に付された決算書及び附属書類について、財務会計上の合規性の検証に加え、事務事業が経済的かつ効率的に執行されているか等に主眼をおき、通常実施すべき審査手続を実施した。

また、計数の確認、関係諸帳簿との照合等を行うとともに、関係職員の説明を聴取した。

## 4 審査の結果

審査に付された当年度の決算書及び附属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、関係諸帳簿及び証拠書類といずれも符合し、正確であると認められた。

なお、審査概要及び審査所見は、後述のとおりである。

## 5 決算の概要

### (1) 業務の執行状況（予算書第2条関係・業務の予定と実績対比）

#### ア 病床の利用状況

区 分	平成26年度	平成25年度	比較増減	25年度県平均
病 床 数 (床)	500	500	0	-
病 床 利 用 率 (%)	84.9	79.0	5.9	86.5
平均在院日数 (日)	10.0	10.4	△ 0.4	17.1

- ・許可病床数は500床、病床利用率は84.9%となった。

#### イ 患者数の状況

(単位:人、%)

区 分	平成26年度			平成25年度	対前年度比較増減		
	当初予定量	補正後	実績 ①	実績 ②	①-②	伸び率	
利用患者数	461,950	454,638	463,026	393,430	69,596		
内 訳	入院患者数 (診療実日数)	156,950 365日	154,030 365日	155,011 365日	132,295 335日	22,716 30日	
	外来患者数 (診療実日数)	305,000 244日	300,608 244日	308,015 244日	261,135 223日	46,880 21日	
一日平均入院患者数	430.0	422.0	424.7	394.9	29.8	7.5	
一日平均外来患者数	1,250.0	1,232.0	1,262.4	1,171.0	91.4	7.8	

※平成25年度は、平成25年5月1日開院のため11ヶ月分

- ・利用患者数の実績数は463,026人であり、当初予定数461,950人と比べて、1,076人の増加となった。入院については1,939人の減少、外来については3,015人の増加となった。
- ・利用患者数の多い診療科は、入院で、内科22,622人、整形外科20,221人、消化器内科16,411人となった。外来では、内科48,788人、整形外科29,840人、救急科22,142人となった。

[ 資料 1 ]

地域別延べ患者数(入院・外来)

平成26年度

(単位:人、%)

	掛川市	袋井市	菊川市	御前崎市	森町	磐田市	他県内	県外	計
入院	83,895	41,647	10,856	7,044	3,218	2,180	4,390	1,781	155,011
外来	168,874	81,433	22,958	11,287	6,958	4,711	8,773	3,021	308,015
計	252,769	123,080	33,814	18,331	10,176	6,891	13,163	4,802	463,026
構成比	54.6	26.6	7.3	4.0	2.2	1.5	2.8	1.0	100.0
月平均	21,064	10,257	2,818	1,528	848	574	1,097	400	38,586

平成25年度

(単位:人、%)

	掛川市	袋井市	菊川市	御前崎市	森町	磐田市	他県内	県外	計
入院	74,448	35,776	8,548	4,190	2,504	1,859	3,406	1,564	132,295
外来	146,835	70,226	17,324	7,543	5,468	4,219	6,450	3,070	261,135
計	221,283	106,002	25,872	11,733	7,972	6,078	9,856	4,634	393,430
構成比	56.2	26.9	6.6	3.0	2.0	1.6	2.5	1.2	100.0
月平均	20,117	9,636	2,352	1,067	725	553	896	421	35,767

※平成25年度は、平成25年5月1日開院のため11ヶ月分



## (2) 予算の執行状況 (消費税含む)

### ア 収益的収入及び支出 (第3条関係)

#### (ア) 収益的収入の執行状況

(単位:千円、%)

区 分	予 算		決 算	執行率	比較増減額
	当 初	現 額	金 額		
第1款 病院事業収益	14,351,000	14,592,416	14,733,951	101.0	141,535
第1項 医業収益	13,439,348	13,680,764	13,714,418	100.2	33,654
第1目 入院収益	8,946,150	9,087,770	9,055,592	99.6	△32,178
第2目 外来収益	3,507,500	3,607,296	3,704,647	102.7	97,351
第3目 その他医業収益	826,546	826,546	795,027	96.2	△31,519
第4目 他会計負担金	159,152	159,152	159,152	100.0	0
第2項 医業外収益	911,651	911,651	1,019,533	111.8	107,882
第3項 特別利益	1	1	0	0	△1

- ・ 病院事業収益は、予算 14,592,416千円に対し、決算 14,733,951千円で、141,535千円の増となった。
- ・ 医業収益では、予算に対する比較が入院収益では 32,178千円の減、外来収益では 97,351千円の増、その他医業収益では 31,519千円の減となったため、総額で 33,654千円の増となった。
- ・ 医業外収益の主なものは、両市からの負担金であり、822,709千円である。

#### (イ) 収益的支出の執行状況

(単位:千円、%)

区 分	予 算		決 算	執行率	不用額
	当 初	現 額	金 額		
第1款 病院事業費用	15,313,000	15,845,510	15,630,908	98.6	214,602
第1項 医業費用	14,705,832	15,138,651	14,949,119	98.7	189,532
第2項 医業外費用	570,101	603,839	583,770	96.7	20,069
第3項 特別損失	32,067	98,020	98,019	99.9	1
第4項 予備費	5,000	5,000	0	0	5,000

- ・ 病院事業費用は、予算 15,845,510千円に対し、決算 15,630,908千円で、不用額 214,602千円となった。
- ・ 不用額の主なものは、次のとおりである。

(医業費用)	予算現額	決算額	不用額
給与費	7,899,001 千円	7,720,119 千円	178,882 千円
経費	2,396,953 千円	2,388,788 千円	8,165 千円
(医業外費用)	予算現額	決算額	不用額
院内保育園運営費	74,532 千円	63,779 千円	10,753 千円
雑損失	223,055 千円	216,886 千円	6,169 千円

イ 資本的収入及び支出（第4条関係）

(ア) 資本的収入の執行状況

(単位:千円、%)

区 分	予 算		決 算	執行率	比較増減額
	当 初	現 額	金 額		
第1款 資本的収入	1,038,908	1,039,195	901,537	86.8	△137,658
第1項 企業債	200,000	200,000	157,000	78.5	△43,000
第2項 出資金	838,907	838,907	744,249	88.7	△94,658
第3項 貸付資金返還金	1	288	288	100.0	0

- ・ 資本的収入の決算は、901,537千円（執行率 86.8%）である。
- ・ 企業債は、予算 200,000千円に対し、決算 157,000千円であり、差引 43,000千円は医療機器等の購入減により借入が不要となったためである。

(イ) 資本的支出の執行状況

(単位:千円、%)

区 分	予 算		決 算	執行率	不用額
	当 初	現 額	金 額		
第1款 資本的支出	1,665,470	1,641,230	1,538,147	93.7	103,083
第1項 建設改良費	405,880	381,640	280,898	73.6	100,742
第2項 企業債償還金	1,195,780	1,195,780	1,195,779	99.9	1
第3項 投 資	63,810	63,810	61,470	96.3	2,340

- ・ 資本的支出の決算は 1,538,147千円で、不用額が 103,083千円となった。
- ・ 建設改良費の支出内容は、主に手術用顕微鏡をはじめとする医療機器等の購入である。
- ・ 投資の支出内容は、医学生及び看護学生に対する修学資金貸付金である。

(ウ) 資本収支状況

資本的収入が資本的支出に不足する額 636,610千円は、

当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額	731 千円
過年度分損益勘定留保資金	635,879 千円

で補てんされている。

ウ 企業債の発行と償還状況(第6条関係)

(単位:千円、%)

区 分	25年度末残高	26年度借入額	26年度借入利率	26年度償還額	26年度末残高
企業債	20,802,800	157,000	0.10	1,195,780	19,764,020

当年度は157,000千円を借入し、1,195,780千円を償還したため、未償還額は19,764,020千円となった。借入限度額は200,000千円、借入利率は5.0%以内と定められており、共に範囲内である。

エ 一時借入金(第7条関係)

一時借入金の限度額は1,500,000千円であるが、当年度ピーク残高は平成27年3月の455,229千円であり、限度額の範囲内である。

オ 議会の議決を要する経費の流用(第9条関係)

職員給与費及び交際費の流用は、議会の議決を経なければならない経費であるが、当年度の流用はなかった。

	予算現額	決算額
(1) 職員給与費	7,912,258 千円	7,732,013 千円
(2) 交 際 費	610 千円	563 千円

カ たな卸資産(第10条関係)

たな卸資産の限度額は3,252,886千円であるが、購入額は3,061,856千円であり、限度額の範囲内である。

購入額内訳:	薬 品	1,544,394 千円
	診療材料	1,517,462 千円

### (3) 経営成績の状況（消費税除く）

#### ア 経営収支の状況

（単位：千円、％）

区 分		平成26年度		平成25年度		対前年度 増減額	月平均 伸び率	
		金 額	構成比	金 額	構成比			
経 常 収 支	収 益	医業収益 (1)	13,659,654	93.1	11,112,741	87.2	2,546,913	12.7
		入院収益	9,055,183	61.7	7,468,298	58.6	1,586,885	11.1
		外来収益	3,702,167	25.2	2,874,263	22.5	827,904	18.1
		その他医業収益	743,152	5.1	608,913	4.8	134,239	11.9
		他会計負担金	159,152	1.1	161,267	1.3	△2,115	△ 9.5
	医業外収益	医業外収益	1,015,409	6.9	1,629,418	12.8	△614,009	△ 42.9
		うち 負担金交付金	822,709	5.6	1,455,145	11.4	△632,436	△ 48.2
		計 (A)	14,675,063	100.0	12,742,159	100.0	1,932,904	5.6
	費 用	医業費用 (2)	14,771,796	95.4	13,296,722	95.5	1,475,074	1.8
		うち 給与費	7,714,603	49.8	7,048,266	50.6	666,337	0.3
		うち 材料費	3,080,321	19.9	2,604,016	18.7	476,305	8.4
		うち 経 費	2,240,478	14.5	1,932,214	13.9	308,264	6.3
		うち 減価償却費	1,675,515	10.8	1,667,491	12.0	8,024	△ 7.9
		医業外費用	712,360	4.6	628,375	4.5	83,985	3.9
うち 支払利息及び 企業債取扱諸費		248,515	1.6	237,063	1.7	11,452	△ 3.9	
うち 雑損失		390,112	2.5	213,826	1.5	176,286	67.2	
計 (B)	15,484,156	100.0	13,925,097	100.0	1,559,059	1.9		
経常損益(A)-(B) (C)		△809,093	-	△1,182,938	-	373,845	-	
特別損益 (D)		△98,020	-	-	-	△98,020	皆増	
当年度純損益 (E)=(C+D)		△907,113	-	△1,182,938	-	275,825	-	
前年度繰越利益剰余金 (F)		△1,182,938	-	-	-	△1,182,938	皆増	
当年度未処分利益剰余金(E)+(F)		△2,090,051	-	△1,182,938	-	△907,113	-	
総収支比率 (A)÷(B-D)		94.2		91.5		2.7		
医 業 損 益(1)-(2)		△1,112,142	-	△2,183,981	-	1,071,839	-	
医業収支比率 (1)÷(2)		92.5		83.6		8.9		

- ・ 経常収支は、収益 14,675,063千円、費用 15,484,156千円で、差引経常損失は、809,093千円となった。これに、平成25年度の両市からの繰入に対する精算金支出 98,020千円を加えた当年度純損失は、907,113千円となり、更に前年度繰越欠損金を加えた当年度未処理欠損金は、2,090,051千円となった。
- ・ 医業損失は 1,112,142千円で、前年度の 2,183,981千円に比べ 1,071,839千円改善された。これにより、経営上最も重視される医療業務活動の能率効果を測定する医業収支比率は 92.5%となり、前年度比 8.9ポイント上昇した。
- ・ 医業損失発生要因としては、医業費用において、職員数の増加により給与費が増加したこと、開院当初購入の医療機器等の保守料金が新規に発生したこと、患者数の増加により薬品費・診療材料費が増加したことが挙げられる。

[ 資料 2 ]

病院収入と両市からの収益的収入への繰入金決算額の状況は、次表のとおりである。

経常収支と繰入金決算額の推移

(単位:千円、%)

区 分	26年度	25年度
総 収 入	14,675,063	12,742,159
うち医業収益 ①	13,659,654	11,112,741
総 費 用	15,484,156	13,925,097
うち医業費用 ②	14,771,796	13,296,722
医業損益 ①-②	△1,112,142	△2,183,981
経 常 損 益	△809,093	△1,182,938

両市からの繰入金(3条)	981,861	1,616,412
繰入金を除く経常損益	△1,790,954	△2,799,350
繰入金／総収入(%)	6.7	12.7

両市からの繰入金決算額の状況

(単位:千円)

区 分	26年度	25年度	前年度 比較増減	
両市からの繰入金	1,726,110	1,666,412	59,698	
内	両市負担金 (収益的収入へ)	981,861	1,616,412	△634,551
	掛川市	573,669	936,382	△362,713
	袋井市	408,192	680,030	△271,838
訳	両市出資金 (資本的収入へ)	744,249	50,000	694,249
	掛川市	447,239	30,200	417,039
	袋井市	297,010	19,800	277,210

自治体病院事業に要する経費のうち、

- ① その性質上経営に伴う収入をもって充てることが適当でない経費

例:保健衛生行政に要する経費など

- ② 病院事業の性質上、能率的な経営を行っても、なおその経営に伴う収入のみをもって充てることが、客観的に困難であると認められる経費

例:救急業務、高度医療の経費など

については、地方公営企業法により、地方公共団体が負担するものとされている。

## イ 医業収益の状況

### (ア) 患者の一人・一日当たりの診療収入(診療単価)

#### 入院

算式	平成26年度		平成25年度		比較増減
入院収益(千円)	9,055,183	58,416 円	7,468,298	56,452 円	1,964 円
年延入院患者数(人)	155,011		132,295		

#### 外来

算式	平成26年度		平成25年度		比較増減
外来収益(千円)	3,702,167	12,019 円	2,874,263	11,007 円	1,012 円
年延外来患者数(人)	308,015		261,135		

・収益、患者数ともに増加している。診療単価は入院で1,964円、外来で1,012円の増額となった。

### (イ) 医師及び看護師の一人・一日当たりの診療収入(診療単価)

#### 医師

算式		平成26年度		平成25年度		比較増減
入院	入院収益(千円)	9,055,183	277,171 円	7,468,298	261,770 円	15,401 円
	年延医師数(人)	32,670		28,530		
外来	外来収益(千円)	3,702,167	169,552 円	2,874,263	151,420 円	18,132 円
	年延医師数(人)	21,835		18,982		
入院+外来		446,723 円		413,190 円		33,533 円

・入院・外来を合計した医師一人当たりの診療単価は、前年度対比 33,533円の増額となった。

#### 看護師

算式		平成26年度		平成25年度		比較増減
入院	入院収益(千円)	9,055,183	49,240 円	7,468,298	45,361 円	3,879 円
	年延看護師数(人)	183,899		164,643		
外来	外来収益(千円)	3,702,167	30,114 円	2,874,263	26,477 円	3,637 円
	年延看護師数(人)	122,940		108,559		
入院+外来		79,354 円		71,838 円		7,516 円

・入院・外来を合計した看護師一人当たりの診療単価は、前年度対比 7,516円の増額となった。

## (ウ) 職員一人当たりの医業収益(年間)

算式	平成26年度		平成25年度		比較増減
医業収益(千円)	13,659,654	17,053 千円	11,112,741	14,432 千円	2,621 千円
損益勘定職員数(人)	801		770		

※損益勘定職員数には、血液内科医師である企業長を含む。

- ・ 損益勘定職員数が31人増加したものの、医業収益が年間 2,546,913千円増加したため、職員一人当たりの医業収益は、2,621千円の増額となった。

## (エ) 診療収入の入院・外来別内訳表

(単位:千円、%)

区 分	平成26年度		平成25年度		対前年度 増減額	月平均 伸び率	
	金 額	構成比	金 額	構成比			
入 院	入院料	3,891,061	43.0	2,986,716	40.0	904,345	19.4
	処置・手術	2,542,874	28.1	2,243,358	30.0	299,516	3.9
	注射	468,385	5.2	424,447	5.7	43,938	1.2
	検査	508,718	5.6	387,499	5.2	121,219	20.3
	放射線	296,032	3.3	271,664	3.6	24,368	△ 0.1
	給食	233,680	2.6	195,107	2.6	38,573	9.8
	投薬	141,040	1.5	107,008	1.4	34,032	20.8
	その他	973,393	10.7	852,499	11.4	120,894	4.7
	計	9,055,183	100.0	7,468,298	100.0	1,586,885	11.1
外 来	検査	823,930	22.3	646,028	22.5	177,902	16.9
	放射線	758,258	20.5	559,742	19.5	198,516	24.2
	処置・手術	534,106	14.4	441,181	15.3	92,925	11.0
	注射	587,335	15.9	421,162	14.7	166,173	27.8
	再診料	149,458	4.0	116,996	4.1	32,462	17.1
	初診料	125,001	3.4	101,068	3.5	23,933	13.4
	投薬	48,741	1.3	56,485	2.0	△ 7,744	△ 20.9
	その他	675,338	18.2	531,601	18.5	143,737	16.5
	計	3,702,167	100.0	2,874,263	100.0	827,904	18.1
入院・外来 計	12,757,350	-	10,342,561	-	2,414,789	13.1	

※平成25年度は、平成25年5月1日開院のため11ヶ月分

- ・ 入院診療収入は月平均で11.1%の増収となった。
- ・ 外来診療収入は月平均で18.1%の増収となった。

## (オ) その他医業収益の状況

(単位:千円、%)

区 分	平成26年度	平成25年度	対前年度 増減額	月平均 伸び率
室料差額収益	129,606	102,120	27,486	16.3
公衆衛生活動収益	204,045	151,122	52,923	23.8
医療相談収益	312,991	270,516	42,475	6.1
受託検査施設利用収益	1,977	1,583	394	14.5
その他医業収益	94,533	83,572	10,961	3.7
合 計	743,152	608,913	134,239	11.9

※平成25年度は、平成25年5月1日開院のため11ヶ月分

## ・ 室料差額収益 (個室料収益)

## ・ 公衆衛生活動収益 (健康診断・予防接種収益他)

収益が大きいもの	予防接種	54,916 千円
	妊婦健診	51,012 千円
	一般健康診断	44,599 千円

## ・ 医療相談収益 (人間ドック収益他)

人間ドック (日帰り 9,211人、一泊 57人)	301,303 千円
脳ドック (273人)	9,560 千円
PETがん検診 (19人)	2,128 千円

## ・ 受託検査施設利用収益 (他の医療機関から検査の委託を受けた検査収益)

## ・ その他医業収益

収益が大きいもの	文書料	48,894 千円
	新生児介補料	25,170 千円
	病衣使用料	9,647 千円

イ 医業費用の状況

(ア) 給与費の状況

(単位:千円、%)

区 分	平成26年度	平成25年度	対前年度 増減額	月平均 伸び率
医 業 収 益 ①	13,659,654	11,112,741	2,546,913	12.7
医 業 費 用 ②	14,771,796	13,296,722	1,475,074	1.8
給 与 費 ③	7,714,603	7,048,266	666,337	0.3
(うち退職給付費)	534,855	318,941	215,914	53.7
対医業収益比 (③÷①)	56.5	63.4	△ 6.9	-
対医業費用比 (③÷②)	52.2	53.0	△ 0.8	-

※平成25年度は、平成25年5月1日開院のため11ヶ月分

- ・ 医業収益における比率は 56.5%、医業費用における比率は 52.2%となった。

職員数の状況(各年度3月31日現在)

(単位:人)

	医師	医療 技術員	看護師	事務部門	技術労務 部門	計	非常勤
平成25年度	87	119	486	43	34	769	205
平成26年度	88	126	503	52	31	800	203
対前年度	1	7	17	9	△3	31	△2

- ・ 前年度対比で、医師は微増となり、看護基準7対1維持のため、看護師は 17人増加している。

医師推移(年間平均在職者数)

(単位:人)

	平成26年度	平成25年度
医師年間平均在職者数	89.5	85.2

- ・ 前年度対比で、医師の年間平均在職者数は4.3人増加している。

(イ) 医業経費の状況

経費のうち金額の大きなもの

(単位:千円、%)

	平成26年度		平成25年度		対前年度 増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
経 費	2,240,478	100.0	1,932,214	100.0	308,264
うち 委託料	1,180,352	52.7	954,106	49.4	226,246
うち 負担金	276,197	12.3	234,770	12.2	41,427
うち 賃借料	243,417	10.9	222,280	11.5	21,137
うち 光熱水費	207,440	9.3	180,981	9.4	26,459

- ・ 経費のうち、委託料が半分を占めている。

委託料のうち金額の大きな業務

医事業務	231,666 千円
医療機器保守業務	229,071 千円
給食業務	203,116 千円
施設設備保守業務	155,664 千円

#### (4) 財政の状態

資産・負債及び資本の状態を前年度と比較した貸借対照表は、次のとおりである。

(単位:千円、%)

区 分	平成26年度		平成25年度		対前年度		月平均 伸び率	
	金 額	構成比	金 額	構成比	比較増減	伸び率		
資 産	固定資産	19,836,046	89.6	21,301,151	90.7	△1,465,105	△ 6.9	△ 14.6
	流動資産	2,305,046	10.4	2,189,783	9.3	115,263	5.3	△ 3.5
資産合計		22,141,092	100.0	23,490,934	100.0	△1,349,842	△ 5.7	△ 13.6
負 債	固定負債	19,359,030	87.4	20,246,516	86.2	△887,486	△ 4.4	△ 12.4
	流動負債	3,048,816	13.8	3,229,590	13.7	△180,774	△ 5.6	△ 13.5
	繰延収益	726,973	3.3	845,692	3.6	△118,719	△ 14.0	△ 21.2
	計	23,134,819	104.5	24,321,798	103.5	△1,186,979	△ 4.9	△ 12.8
資 本	資本金	1,096,324	4.9	352,074	1.5	744,250	211.4	185.4
	剰余金	△2,090,051	△ 9.4	△1,182,938	△ 5.0	△907,113	76.7	62.0
	計	△993,727	△ 4.5	△830,864	△ 3.5	△162,863	19.6	9.6
負債資本合計		22,141,092	100.0	23,490,934	100.0	△1,349,842	△ 5.7	△ 13.6

#### ア 資産の状態

当年度の資産総額は 22,141,092千円となった。

- ・ 固定資産の額 19,836,046千円のうち、有形固定資産の額は、医療機器等の購入、救命救急センターの建設仮勘定により 166,934千円増加したものの、老朽医療機器の処分、減価償却により 3,348,639千円減少したため 19,637,588千円となった。
- ・ 流動資産は 2,305,046千円で、内訳は未収金が 2,130,648千円、貯蔵品が 156,961千円、前払費用が11,665千円、現金預金が 5,772千円となっている。

#### 貯蔵品回転率

(単位:円、回)

算 式	平成26年度		平成25年度		比 較
期首貯蔵＋当年度購入－期末貯蔵	3,086,439,743	19.8	2,607,729,517	33.8	△ 14.0
(期首貯蔵＋期末貯蔵)÷2	155,667,228		77,186,696		

- ・ 貯蔵品の回転率は、前年度対比で14回減少し19.8回となった。

## イ 負債の状態

当年度の負債は 23,134,819千円となった。

- ・ 固定負債は 19,359,030千円で、内訳は企業債が 18,517,992千円、未払金が 401,444千円、退職給付引当金が 353,075千円等となっている。

年賦未払金(医療機器)	401,444 千円	(76,039千円減)
-------------	------------	-------------

- ・ 流動負債は 3,048,816千円で、1年以内に償還予定の企業債が 1,246,028千円、未払金が 847,291千円、賞与引当金が 344,658千円、一時借入金が 455,228千円等となっている。

未払金の内訳は、

医業未払金	718,498 千円	(150,119千円減)
医業外未払金	29,905 千円	(88,289千円減)
その他未払金	98,888 千円	(94,497千円減)である。

## ウ 資本の状態

資本金は両市からの出資金として 744,249千円を受け入れて、1,096,324千円となった。

剰余金は、△2,090,051千円となった。

資本金と剰余金を合わせた資本の合計は △993,727千円で、債務超過となっている。

### (5) 未処理欠損金の処理について

当年度未処理欠損金 2,090,051千円については、全額を翌年度繰越欠損金としている。

## 6 キャッシュ・フロー計算書

### 1 業務活動によるキャッシュフロー

(単位：千円)

項 目	平成26年度	平成25年度	比較増減
1 当年度純損益	△ 907,112	△ 1,182,938	275,826
2 減価償却費	1,671,691	1,667,490	4,201
3 固定資産除却費	5,634	0	5,634
4 長期貸付金返還免除額	0	1,410	△ 1,410
5 長期前払消費税勘定償却	2,386	△ 47,728	50,114
6 長期前受金戻入額	△ 118,719	△ 114,684	△ 4,035
7 受取利息及び受取配当金	0	0	0
8 支払利息	248,515	237,063	11,452
9 未収金の増減額	△ 104,121	△ 2,026,528	1,922,407
10 貯蔵品の増減額	△ 2,588	△ 154,373	151,785
11 前払金の増減額	△ 11,665	0	△ 11,665
12 退職給付引当金の増減額	320,842	32,233	288,609
13 賞与引当金の増減額	△ 43,782	388,440	△ 432,222
14 法定福利費引当金の増減額	56,633	0	56,633
15 貸倒引当金の増減額	3,620	0	3,620
16 未払金の増減額	△ 410,155	1,064,834	△ 1,474,989
17 預り金の増減額	184	55,534	△ 55,350
18 リース債務及び年賦に係る消費税額の調整	0	37,437	△ 37,437
小 計	711,363	△ 41,810	753,173
1 利息及び配当金の受取額	0	0	0
2 利息の支払額	△ 248,515	△ 237,063	△ 11,452
合 計	462,848	△ 278,873	741,721

### 2 投資活動によるキャッシュフロー

1 有形固定資産の取得による支出	△ 98,486	△ 357,124	258,638
2 国県補助金等による収入	0	18,743	△ 18,743
3 長期貸付金の貸付による支出	△ 42,780	△ 66,610	23,830
4 長期貸付金の返還による収入	288	960	△ 672
合 計	△ 140,978	△ 404,031	263,053

### 3 財務活動によるキャッシュフロー

1 一時借入金による収入	1,443,836	5,747,691	△ 4,303,855
2 一時借入金の返済による支出	△ 1,354,986	△ 5,381,312	4,026,326
3 建設改良事業債による収入	157,000	196,800	△ 39,800
4 建設改良事業債の償還による支出	△ 1,195,780	0	△ 1,195,780
5 リース債務及び年賦返済による支出	△ 119,299	0	△ 119,299
6 他会計からの出資による収入	744,249	50,000	694,249
合 計	△ 324,980	613,179	△ 938,159

資金増減額	△ 3,110	△ 69,725	66,615
-------	---------	----------	--------

資金期首残高	8,882	78,607	△ 69,725
--------	-------	--------	----------

資金期末残高	5,772	8,882	△ 3,110
--------	-------	-------	---------

キャッシュ・フロー計算書は、病院事業会計における純損益から、資産の増減を反映させ、減価償却費など、非資金項目を調整した「間接法」で作成し、実質資金収支(キャッシュ・フロー)を示したものである。

なお、本年度の業務活動によるキャッシュ・フローは 462,848千円プラス、投資活動によるキャッシュ・フローは 140,978千円マイナス、財務活動によるキャッシュ・フローで 324,980千円マイナスとなった。

これにより、資金期末残高は 5,772千円となった。

## 7 むすび

全国初の市立病院同士の統合として注目される中、掛川・袋井両市民の期待を受け、中東遠総合医療センターを開院し、今回2回目の決算を迎えることとなった。

2年を経過し、現在は概ね順調に運営されており、DPC病院の機能評価係数、日経ビジネスの病院経営力ランキングにおいて、共に良い結果を得られたことは、全職員の努力の賜として評価できる。

運営状況では、一日平均入院患者数は前年度比30人増加し425人となり、病床利用率は84.9%と前年度比5.9ポイント上昇した。また、一日平均外来患者数は前年度比91人増加し1,262人となった。

診療単価は、入院が58,416円となり前年度比1,964円の増加、外来が12,019円となり、前年度比1,012円の増加となった。

入院・外来共に患者数が大幅に増加し、病床利用率も前年度を上回り完全稼働の状態が続いている。経費削減はもとより、医療事故等を未然に防止するためにも、業務の効率化による時間外労働の抑制に努力されたい。

医業収益（税抜）では、入院収益は前年度比1,586,885千円増加し9,055,183千円、外来収益は前年度比827,904千円増加し3,702,167千円となった。

患者数の増加、診療報酬単価の引き上げ及び開院初年度のため11ヶ月決算であった前年度に対し、当年度は12ヶ月決算となったため、大幅な増収となっている。

医業費用（税抜）については、前年度比1,475,074千円増加し、14,771,796千円となった。職員数が、対前年比で31人増員となり給与費が増加したこと、開院当初購入の医療機器等の保守料金が新たに発生したこと、患者数の増加により薬品費・診療材料費が増加したことが主な要因である。

当年度の経常収支（税抜）は、収益14,675,063千円、費用15,582,176千円で、当年度経常損失は809,093千円となった。これに特別損失98,020千円を加え、最終純損失は907,113千円となった。

患者の一部負担金にかかる未収金の早期回収と発生防止、点検強化によるレセプト返戻の減少に努め、収益の確保による安定経営に努められたい。

企業債については、医療機器購入費の起債の元金償還が始まったため、前年度比1,038,780千円減少し、未償還残高は19,764,020千円となった。

医療機器等の購入については、企業債の償還額を上回ることはないよう注意され、経営を圧迫する債務の低減に努められたい。

当企業団は、資本金302,075千円と自己資本過小にて設立されたため、新病院の設

備を企業債にて資金調達しており、平成27年3月末現在 993,727千円の債務超過となっている。

収支状況に留意しつつ、資本注入等両市への支援要請を検討されたい。

今後も、企業団・両市の連携により、地域住民の健康増進に寄与されることを望むとともに、「救命救急センター」指定を受け、中東遠の基幹病院として地域医療の牽引役を果たされることを期待する。

8 附表 1

最近2ヵ年の入院・外来 診療科別患者数、構成比及びすう勢比率 (単位：人、%)

区 分		入 院			外 来		
		平成25年度	平成26年度	対前年度 差・伸び率	平成25年度	平成26年度	対前年度 差・伸び率
内 科	患者数	16,913	22,622	5,709	41,326	48,788	7,462
	構成比	12.8	14.6		15.8	15.8	
	すう勢比率	100.0	133.8	33.8	100.0	118.1	18.1
神経内科	患者数	6,132	6,471	339	8,752	11,143	2,391
	構成比	4.6	4.2		3.4	3.6	
	すう勢比率	100.0	105.5	5.5	100.0	127.3	27.3
呼吸器内科	患者数	10,047	11,874	1,827	5,498	7,498	2,000
	構成比	7.6	7.7		2.1	2.4	
	すう勢比率	100.0	118.2	18.2	100.0	136.4	36.4
消化器内科	患者数	14,009	16,411	2,402	18,264	19,952	1,688
	構成比	10.6	10.6		7.0	6.5	
	すう勢比率	100.0	117.1	17.1	100.0	109.2	9.2
循環器内科	患者数	12,622	15,304	2,682	12,163	15,492	3,329
	構成比	9.5	9.9		4.7	5.0	
	すう勢比率	100.0	121.2	21.2	100.0	127.4	27.4
外 科	患者数	13,467	13,763	296	16,274	17,750	1,476
	構成比	10.2	8.9		6.2	5.8	
	すう勢比率	100.0	102.2	2.2	100.0	109.1	9.1
小児外科	患者数	0	0	0	3	0	△3
	構成比	0.0	0.0		0.0	0.0	
	すう勢比率	100.0	0.0	-	100.0	0.0	-
呼吸器外科	患者数	11	0	△11	28	0	△28
	構成比	0.0	0.0		0.0	0.0	
	すう勢比率	100.0	0.0	-	100.0	0.0	-
整形外科	患者数	19,196	20,221	1,025	25,479	29,840	4,361
	構成比	14.5	13.0		9.8	9.7	
	すう勢比率	100.0	105.3	5.3	100.0	117.1	17.1
リウマチ科	患者数	0	0	0	1,463	1,861	398
	構成比	0.0	0.0		0.6	0.6	
	すう勢比率	100.0	0.0	-	100.0	127.2	27.2
脳神経外科	患者数	12,608	14,972	2,364	13,410	14,656	1,246
	構成比	9.5	9.7		5.1	4.8	
	すう勢比率	100.0	118.8	18.8	100.0	109.3	9.3
小 児 科	患者数	3,746	5,122	1,376	13,077	16,972	3,895
	構成比	2.8	3.3		5.0	5.5	
	すう勢比率	100.0	136.7	36.7	100.0	129.8	29.8
産婦人科	患者数	6,866	8,559	1,693	15,239	17,656	2,417
	構成比	5.2	5.5		5.8	5.7	
	すう勢比率	100.0	124.7	24.7	100.0	115.9	15.9
泌尿器科	患者数	5,090	6,528	1,438	11,880	14,463	2,583
	構成比	3.9	4.2		4.5	4.7	
	すう勢比率	100.0	128.3	28.3	100.0	121.7	21.7
皮 膚 科	患者数	1,810	1,574	△236	11,062	12,192	1,130
	構成比	1.4	1.0		4.2	4.0	
	すう勢比率	100.0	87.0	△13.0	100.0	110.2	10.2
眼 科	患者数	1,878	2,283	405	17,166	20,154	2,988
	構成比	1.4	1.5		6.6	6.5	
	すう勢比率	100.0	121.6	21.6	100.0	117.4	17.4
耳 鼻 いんこう科	患者数	4,352	5,031	679	10,675	13,569	2,894
	構成比	3.3	3.2		4.1	4.4	
	すう勢比率	100.0	115.6	15.6	100.0	127.1	27.1
放 射 線 診 断 科	患者数	0	0	0	5,627	7,127	1,500
	構成比	0.0	0.0		2.2	2.3	
	すう勢比率	100.0	0.0	-	100.0	126.7	26.7
麻 酔 科	患者数	0	4	4	3,047	3,851	804
	構成比	0.0	0.0		1.2	1.3	
	すう勢比率	100.0	0.0	-	100.0	126.4	26.4
歯科口腔 外 科	患者数	1,642	2,094	452	10,291	12,909	2,618
	構成比	1.3	1.3		3.9	4.2	
	すう勢比率	100.0	127.5	27.5	100.0	125.4	25.4
精 神 科	患者数	0	0	0	0	0	0
	構成比	0.0	0.0		0.0	0.0	
	すう勢比率	100.0	0.0	-	100.0	0.0	-
救 急 科	患者数	1,906	2,178	272	20,411	22,142	1,731
	構成比	1.4	1.4		7.8	7.2	
	すう勢比率	100.0	114.3	14.3	100.0	108.5	8.5
計	患者数	132,295	155,011	22,716	261,135	308,015	46,880
	構成比	100.0	100.0		100.0	100.0	
	すう勢比率	100.0	117.2	17.2	100.0	118.0	18.0

※平成25年度は、平成25年5月1日開院のため11ヶ月分

附表 2

最近2カ年の診療科別収入の構成比と患者一人当たり収入金額（消費税抜き）

区 分		診 療 収 入 (単位：千円、%)						患者一人当たり収入 (単位：円、%)			
		平成25年度		平成26年度		対 前 年 度		平成25年度	平成26年度	対 前 年 度	
		金 額	構成比	金 額	構成比	比較増減	伸比率			比較増減	伸比率
内 科	入院	731,507		992,347		260,840	35.7	43,251	43,866	615	1.4
	外来	657,718		817,195		159,477	24.2	15,915	16,750	835	5.2
	計	1,389,225	13.4	1,809,542	14.2	420,317	30.3	23,854	25,340	1,486	6.2
神経内科	入院	277,101		280,847		3,746	1.4	45,189	43,401	△1,788	△4.0
	外来	103,172		143,208		40,036	38.8	11,788	12,852	1,064	9.0
	計	380,273	3.7	424,055	3.3	43,782	11.5	25,549	24,075	△1,474	△5.8
呼吸器内科	入院	444,716		501,627		56,911	12.8	44,264	42,246	△2,018	△4.6
	外来	74,792		129,389		54,597	73.0	13,603	17,256	3,653	26.9
	計	519,508	5.0	631,016	4.9	111,508	21.5	33,420	32,574	△846	△2.5
消化器内科	入院	577,065		712,759		135,694	23.5	41,192	43,432	2,240	5.4
	外来	227,725		286,069		58,344	25.6	12,469	14,338	1,869	15.0
	計	804,790	7.8	998,828	7.8	194,038	24.1	24,937	27,468	2,531	10.2
循環器内科	入院	1,077,687		1,371,048		293,361	27.2	85,382	89,588	4,206	4.9
	外来	170,948		217,246		46,298	27.1	14,055	14,023	△32	△0.2
	計	1,248,635	12.1	1,588,294	12.5	339,659	27.2	50,379	51,575	1,196	2.4
外 科	入院	980,947		1,035,307		54,360	5.5	72,841	75,224	2,383	3.3
	外来	277,446		352,194		74,748	26.9	17,048	19,842	2,794	16.4
	計	1,258,393	12.2	1,387,501	10.9	129,108	10.3	42,312	44,029	1,717	4.1
小児外科	入院	0		0		0	—	0	0	—	—
	外来	39		0		△39	皆減	13,001	0	△13,001	皆減
	計	39	0.0	0	0.0	△39	皆減	13,001	0	△13,001	皆減
呼吸器外科	入院	97		0		△97	皆減	8,836	0	△8,836	皆減
	外来	218		0		△218	皆減	7,784	0	△7,784	皆減
	計	315	0.0	0	0.0	△315	皆減	8,081	0	△8,081	皆減
整形外科	入院	982,988		1,213,077		230,089	23.4	51,208	59,991	8,783	17.2
	外来	175,951		211,146		35,195	20.0	6,906	7,076	170	2.5
	計	1,158,939	11.2	1,424,223	11.2	265,284	22.9	25,942	28,450	2,508	9.7
リウマチ科	入院	0		0		0	—	0	—	—	—
	外来	44,587		52,095		7,508	16.8	30,477	27,993	△2,484	△8.1
	計	44,587	0.4	52,095	0.4	7,508	16.8	30,477	27,993	△2,484	△8.1
脳神経外科	入院	926,819		1,076,931		150,112	16.2	73,510	71,930	△1,580	△2.2
	外来	125,264		151,393		26,129	20.9	9,341	10,330	989	10.6
	計	1,052,083	10.2	1,228,324	9.6	176,241	16.8	40,437	41,458	1,021	2.5
小 児 科	入院	164,129		231,081		66,952	40.8	43,815	45,115	1,300	3.0
	外来	134,773		172,132		37,359	27.7	10,306	10,142	△164	△1.6
	計	298,902	2.9	403,213	3.2	104,311	34.9	17,767	18,250	483	2.7
産婦人科	入院	399,702		498,045		98,343	24.6	58,215	58,190	△25	△0.0
	外来	74,190		92,518		18,328	24.7	4,868	5,240	372	7.6
	計	473,892	4.6	590,563	4.6	116,671	24.6	21,438	22,528	1,090	5.1
泌尿器科	入院	310,512		417,942		107,430	34.6	61,004	64,023	3,019	4.9
	外来	184,117		238,219		54,102	29.4	15,498	16,471	973	6.3
	計	494,629	4.8	656,161	5.1	161,532	32.7	29,147	31,259	2,112	7.2
皮 膚 科	入院	67,933		61,636		△6,297	△9.3	37,532	39,159	1,627	4.3
	外来	62,559		74,607		12,048	19.3	5,655	6,119	464	8.2
	計	130,492	1.2	136,243	1.1	5,751	4.4	10,138	9,897	△241	△2.4
眼 科	入院	142,355		186,165		43,810	30.8	75,801	81,544	5,743	7.6
	外来	133,782		171,699		37,917	28.3	7,793	8,519	726	9.3
	計	276,137	2.7	357,864	2.8	81,727	29.6	14,500	15,950	1,450	10.0
耳 鼻 いんこう科	入院	200,632		250,250		49,618	24.7	46,101	49,742	3,641	7.9
	外来	79,175		117,794		38,619	48.8	7,417	8,681	1,264	17.0
	計	279,807	2.7	368,044	2.9	88,237	31.5	18,620	19,787	1,167	6.3
放 射 線 診 断 科	入院	0		0		0	—	0	0	—	—
	外来	81,378		110,463		29,085	35.7	14,462	15,499	1,037	7.2
	計	81,378	0.8	110,463	0.9	29,085	35.7	14,462	15,499	1,037	7.2
麻 酔 科	入院	0		286		286	皆増	0	71,582	71,582	皆増
	外来	21,737		26,397		4,660	21.4	7,134	6,855	△279	△3.9
	計	21,737	0.2	26,683	0.2	4,946	22.8	7,134	6,922	△212	△3.0
歯科口腔 外 科	入院	90,291		109,058		18,767	20.8	54,988	52,081	△2,907	△5.3
	外来	64,186		86,673		22,487	35.0	6,237	6,714	477	7.6
	計	154,477	1.5	195,731	1.5	41,254	26.7	12,945	13,046	101	0.8
精 神 科	入院	0		0		0	—	0	0	—	—
	外来	0		0		0	—	0	0	—	—
	計	0	0.0	0	0.0	0	—	0	0	—	—
救 急 科	入院	93,817		116,777		22,960	24.5	49,222	53,616	4,394	8.9
	外来	180,506		251,730		71,224	39.5	8,844	11,369	2,525	28.6
	計	274,323	2.6	368,507	2.9	94,184	34.3	12,292	15,152	2,860	23.3
計	入院	7,468,298	72.2	9,055,183	71.0	1,586,885	21.2	56,452	58,416	1,964	3.5
	外来	2,874,263	27.8	3,702,167	29.0	827,904	28.8	11,007	12,019	1,012	9.2
	計	10,342,561	100.0	12,757,350	100.0	2,414,789	23.3	26,288	27,552	1,264	4.8

※平成25年度は、平成25年5月1日開院のため11ヶ月分

附表 3

経営分析表

分析項目	単位	平成25年度	平成26年度	算式	説明
固定資産構成比率	%	90.7	89.6	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$	固定資産と資産総額との割合を表すもので、この比率の高いことは公営企業の特徴であるが、低いほうが望ましい。
固定負債構成比率	%	86.2	87.4	$\frac{\text{固定負債}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	固定負債と総資本との割合を表すもので、この比率の低いほうが望ましい。
自己資本構成比率	%	△3.5	△4.5	$\frac{\text{資本金+剰余金}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	自己資本と総資本の割合を表すもので、この比率の高いほうが望ましい。
固定資産対長期資本比率	%	109.7	108.0	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金+剰余金+固定負債}} \times 100$	固定資産と長期資本（資本金と固定負債との合計）との割合で、資本固定化の程度を表すものであって100%以下であることが望ましい。
固定比率	%	△2,563.7	△1,996.1	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金+剰余金}} \times 100$	固定資産と自己資本との割合で、資本固定化の程度を表すものであって、100%以下であることが望ましい。
流動比率	%	67.8	75.6	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	流動資産と流動負債との割合で、流動負債の支払能力の程度を表す比率であって、200%以上であることが望ましい。
当座比率	%	63.0	70.1	$\frac{\text{現金預金+未収金}}{\text{流動負債}} \times 100$	当座資産と流動負債との割合で、流動負債の支払能力の程度を表す比率であって、100%以上であることが望ましい。
現金預金比率	%	0.3	0.2	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$	現金・預金と流動負債の割合で、流動負債の支払能力の程度を表す比率であって、20%以上であることが望ましい。
自己資本回転率	回	△42.0	△15.0	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首資本金、剰余金} + \text{期末資本金、剰余金}) \div 2}$	自己資本の利用度を表すもので、原則として回転率の高いことが必要である。
固定資産回転率	回	0.5	0.7	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首固定資産} + \text{期末固定資産}) \div 2}$	固定資産の利用度を表すもので、収益性の観点からは回転率の高いほうがよいが、健全性の上からいえば回転率のあまり高いのはよくない。
減価償却率	%	7.8	8.4	$\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{期末償却資産} + \text{当年度減価償却費}} \times 100$	固定資産の償却率を表すものである。
流動資産回転率	回	9.8	6.1	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首流動資産} + \text{期末流動資産}) \div 2}$	流動資産の使用、利用度を表すものである。
未収金回転率	回	11.0	6.6	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首医業未収金} + \text{期末医業未収金}) \div 2}$	未収金の回収度（回収率）を表すもので、高いほど回転が早く、未収金が未回収のまま残留する期間が短いことを意味する。
総資本利益率	%	△5.2	△4.0	$\frac{\text{当年度純利益}}{(\text{期首負債資本} + \text{期末負債資本}) \div 2} \times 100$	当期の純利益（純損失）と総資本との割合で、企業全体（総資本）の収益性を表すものである。
総収益対総費用比率	%	91.5	94.2	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$	当期の総収益と総費用との割合で、営業活動の能率を表すものであって、この比率の高いほうが望ましい。
医業収益対医業費用比率	%	83.6	92.5	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$	当期の医業収益と医業費用との割合で、営業活動の能率を表すものであって、この比率の高いほうが望ましい。
利子負担率	%	1.1	1.2	$\frac{\text{支払利息}}{(\text{期首企業債、一時借入金} + \text{期末企業債、一時借入金}) \div 2} \times 100$	支払利息と負債との割合を表すもので、この比率の低いほうが望ましい。
企業債償還元金対減価償却額比率	%	0.0	71.4	$\frac{\text{企業債償還元金}}{\text{減価償却費}} \times 100$	企業債償還元金とその償還財源に充当すべき減価償却費との割合を表すもので、この比率の低いことが望ましい。